

---

# 雨電車

菜月 桜花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨電車

### 【Nコード】

N0763M

### 【作者名】

菜月 桜花

### 【あらすじ】

雨の日の 通学電車での出来事

## （前書き）

初めて投稿した作品です。

かなり読みにくいかと思われませんが、あえてそのままにしてあります。

ご了承下さい。

雨は嫌い。

まとまらない髪が嫌い。

冷たい足の爪先が嫌い。

その横にできる、傘からこぼれる水溜まりが嫌い。

窓の外に流れる、灰色の景色が嫌い。

車内の湿った温度が嫌い。

雨の日の電車が

大嫌い。

扉の近く銀のバーにもたれて立ったまま、目を閉じて遮断しようとした世界に 突然入ってきた声。

「おはよう。早いんだな。」

大好きな 君の声。

真っ直ぐで、君そのものみたいな、優しい声。

同じクラスなのに、直接話せたことは無いけど、よく通る声を本読むふりして

いつも聞いていた。

休み時間の教室で。

なぜ、ここにいるの？

見上げただけで 声にはならない。

「俺、いつもチャリ通なんだ。」

知ってる。

線路沿いを走る青い自転車を、毎朝この窓から見てるから。

私の乗る駅から2つ目の駅を出てすぐ、加速始める電車と並ぶように走る青い自転車。

「うちの親、男は体力だとか言つて、定期代くれないんだぜ。だからチャリ通。結構、距離あるのにさ。」

そうなの？好きで乗ってるんだと思つてた。

「でも、すごいハマつてて。」

くしゃつと笑う顔が近すぎて、耳が熱くなる。

こんなに近くにいろの、初めてかも。

あれ？

まだ私、一言も声出してなかった。

「今日は雨だから、切符代もらえたの？」

やつと出た言葉。気のきいた事も言えない私。

目を丸くした君を見て、傘の柄をギョツと握った。おかしいこと言つたかな？

「そうだよ。やつともらえたんだ。」

左手で顔の横に切符をヒラヒラさせて、またくしゃつと笑う。

私の好きな君の笑顔に、ほっと息を吐く。

「チャリの時と同じ時間に家出たから、こんなに早いのに乗っちゃって。」

君がいつも自転車で走ってる横を走る電車だもの。すぐに追い越しちゃうけど。

「いつも、電車なんかには抜かれてたまるかって顔して、自転車走らせてるよね。」

思い出しながら思わず出た言葉に、いつも見てるのバレちゃったかも。

慌てて見上げる私に気づかずに、

「絶対勝てる気がするのに、無理なんだよね。」

真顔で言いながら、首を傾げるから、

「絶対、無理だよ。」

吹き出す。

「やっと笑った。なんで元気無いの？」

少し屈んで顔を覗きこまれて、さらに耳が熱くなる。

「雨、嫌いだから。」

うつむいた足の先、水の輪はバラバラになっていた。

重い制服のスカートを握りしめると、簡単にシワになってしまふ。

「俺は、好きだよ。」

呟くように聞こえた声に、驚いて顔を上げる。

こっちを見る君の顔。

大好きな優しい声。

「一緒に学校行けるから。」

私の心の中の雨雲を吹き飛ばしちゃうような君の言葉。

まとまらない髪も、重い制服も、冷たい足の爪先も、その横の水溜まりも、

大嫌いだった雨電車。

となりで君が笑うから、ちょっとだけ好きになったかも。「次の雨の日も、この電車で。」

また、切符をヒラヒラさせて言う彼の耳も、ちょっと赤い。

ねえ、それは、雨電車の約束なの？

熱い耳のまま見上げる私に、君の少し意地悪な声。

「雨じゃない日は、一緒にチャリね。」

それは、無理！

電車と張り合う人と一緒には走れません。

ブンブン首を振る私を見て、くしゃつと笑う君。

「じゃあ、雨の日限定か。」

降車駅を告げるアナウンスに重なる君の言葉に、  
鼓動がどんどん早くなる。

灰色の景色も、湿った温度も、

たくさんの嫌いを流してしまった君の笑顔に

待ち遠しい、次の雨電車。

f i n



(後書き)

ありがとうございました！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0763m/>

---

雨電車

2011年2月3日02時53分発行